

こんな本があります 代々木関係の本

分類	資料名	編著作者	出版者	出版年
S13	思い出の代々木山谷	元澤常蔵/著	渋谷区立渋谷図書館	1981
S13	明治神宮五十年誌	明治神宮五十年誌編纂委員会/編	明治神宮	1979
S13	明治神宮境内総合調査報告書	明治神宮境内総合調査委員会/編	明治神宮社務所	1980
S13	明治神宮の出現(歴史文化ライブラリー)	山口輝臣/著	吉川弘文館	2005
S13	明治神宮「伝統」を創った大プロジェクト(新潮選書)	今泉宣子/著	新潮社	2013
S13	明治神宮祈りの社	藤田庄市/写真	平凡社	2010
S13	よよぎ 代々木八幡宮社報 1~30		代々木八幡宮	2014
S13	ワシントンハイツ	秋尾沙戸子/著	新潮社	2009
S18	代々木の森(東京公園文庫)	内山正雄/著	郷土社	1981
S18	代々木の里	弥吉哲男/撮影	明治神宮	2009
S18	神々と森と人のいとなみを考える1	代々木の杜80フォーラム運営委員会/編	代々木の杜80フォーラム運営委員会	2001
S18	生命の森明治神宮	佐藤岳彦/写真	講談社	2015
S18	光響詩 代々木公園の四季	齋藤孝昭/写真	玄光社	1994
S18	おあしす 代々木の杜は今	弥吉哲男/撮影	神社新報社	1993
S18	大都会に造られた森 明治神宮の森に学ぶ	松井光瑤ほか/著	第一プランニングセンター	1992
S18	「明治神宮の森」の秘密(小学館文庫)	明治神宮社務所/編	小学館	1999
S71	代々木公園(東京公園文庫)	相川貞晴/著	郷土社	1981
S71	写真で見る代々木公園のあゆみ	代々木公園サービスセンター/編	東京都公園協会	2018
S72	日本航空事始	徳川好敏/著	出版協同社	1964
S72	企画展 渋谷で飛行機が飛んだ		白根記念渋谷区郷土博物館・文学館	2010
S72	日野熊蔵伝 日本初のパイロット	渋谷敦/著	渋谷敦	2010

しづや、あの日 あんなこと そして こんな本

— 渋谷区地域資料通信 4 —

2019年8月10日

編集/発行 渋谷区立中央図書館 (株)図書館流通センター

渋谷区神宮前 1-4-1 3403-2591

図書館ホームページ>しづやのページ

https://www.lib.city.shibuya.tokyo.jp/?page_id=209

しづや あの日 あんなことそして こんな本

渋谷区地域資料通信 4

鎮座して100年になろうとする緑豊かな明治神宮と隣接する開園50年を経た都立代々木公園は渋谷区の中央部に広がる大緑地帯であり、渋谷区が23区の中でも4位という緑被率*の高いことを支えています。

明治神宮一帯は江戸末期に大老井伊直弼を出した彦根藩井伊家の下屋敷の地で、邸内には江戸湾の黒船を観測できるほどの縦の老大樹があり、代々木の地名起源のひとつになっています。明治になって南豊島御料地になり、大正9年(1920)の明治神宮造営にあたっては、全国から9万本余りの献木があり、綿密な計画のもとに人工の自然林が造成されました。

代々木公園一帯にも結城藩水野家などの大名屋敷があり、明治期に農地などを経て明治42年(1909)に陸軍の練兵場が設けられた時には、移住することになった人々が、しんて奉納した訣別のことを

ヒコーキ飛んだ代々木の原

ばを刻んだ燈籠が代々木八幡宮の境内に残されています。練兵場となってからは砲音や砂埃が大きな問題となり、郷土人と移住してきた有識者で結成された公友会による抗議の演説会が開かれたりしました。そして明治43年12月、練兵場で日本最初の飛行試験が行われ、19日に徳川好敏大尉の操縦するアンリ・ファルマン機が3,000m、3分間**の周回飛行に成功しました。続いて日野熊蔵大尉がハンス・グラデー機を駆って1,000m、1分間の飛行をし、この日が初飛行の公式記録となりました。園内には代々木をその記憶の地として記念し、両大尉の偉業を讃える胸像(写真)とともに「日本航空発祥之地」の碑が建立されています。



* 21.3% (平成25年緑被調査)

** 『企画展 渋谷で飛行機が飛んだ』(白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 2010)

都立代々木公園

開園50年を迎えた代々木公園の地は戦前陸軍の練兵場であり、日本で最初の試験飛行が行われました。戦後、練兵場は連合軍に接收され米軍宿舎（ワシントンハイツ）が建設されました。昭和39年（1964）の東京オリンピック開催にあたり、ワシントンハイツが選手村にあてられることになり、日本に返還されました。オリンピック後、現在の森林公園へ整備されました。



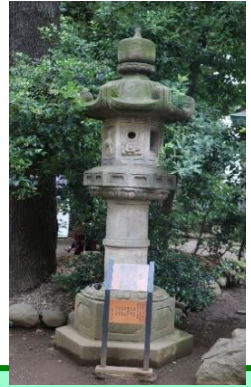
練兵場の時代、砲音や砂埃が大きな問題となり、郷土人と移住してきた有識者で結成された公友会による抗議の演説会が開かれたりしました。

『春の小川』歌碑

河骨川は唱歌『春の小川』の舞台になった川です。作詞者高野辰之は代々木三丁目に居住していました。



公友会による抗議の演説会ポスター 『図説渋谷区史』より



訣別の碑燈籠

代々木八幡宮の境内には、練兵場用地として買収された字大原に住む氏子たちが長年住み慣れたこの地を去るにあたり住民の名前と惜別のことを刻んだ燈籠が残されています。



千代田線留置線基地

公園の地下には地下鉄千代田線がとおり留置線基地が設けられています。公園内の場違いな換気口は千代田線のものです。明治神宮前〈原宿〉駅付近の工事では、神宮橋の地下21mの地点でほぼ一頭分のナウマン象の化石が発掘されています。

写真：代々木公園留置線工事 地下鉄博物館提供

ヒコークイ飛んだ代々木の原

神宮の森



清正井



菖蒲田

清正井・菖蒲田

明治神宮御苑内には加藤清正が掘ったとの言い伝えがある清正井や6月に見ごろをむかえる区の花でもある花菖蒲が咲きほころぶ16枚の菖蒲田があります。清正井から湧き出る水は菖蒲田を潤し南池へと注ぎ、かつてはブラームスの径にあたるコースを流れ、渋谷川へと合流していました。

明治神宮御苑

明治神宮御苑は江戸時代に熊本藩加藤家から彦根藩井伊家の下屋敷の庭園になり、明治期は皇室の代々木御苑として明治天皇と昭憲皇太后に愛されました。苑内の数寄屋造りの隔雲亭は戦火により焼失しましたが、昭和33年に建て替えられました。



隔雲亭

代々木

江戸期に彦根藩井伊家の下屋敷の邸内には江戸湾の黒船を観測できるほどの縦の老大樹があり、代々木の地名起源のひとつになっています。現在の代々木は戦後に植え継がれたものです。

オリンピック記念宿舎

ワシントンハイツの住居をほぼそのまま再利用した選手村宿舎のうち、オランダ選手が使用した宿舎が記念宿舎として残されています。



日本航空発始之地記念碑

初飛行は、明治43年（1910）12月19日の徳川大尉によるものが公式記録とされていますが、日野大尉が非公式ながら5日前の14日に60mほどの初飛行をしたとの報道（15日付「萬朝報」）がありました。記念碑の設計は碌山美術館などを設計した今井兼次によるものです。



両大尉像



練兵場における飛行経路 『日本航空事始』より